

平成19年度

施設名(愛称名)	下田市板戸海水プール
----------	------------

番号

11

平成 19 年度

施設評価調書

施設の名称.....板戸海水プール

所管担当課.....観光交流課

平成 19 年 11 月

平成19年度	施設名(愛称名)	下田市板戸海水プール	番号	11
--------	----------	------------	----	----

施設の概要

1 施設名 (愛称名)	下田市板戸海水プール		2 担当課 担当係	観光交流課 観光戦略係	
3 所在地	下田市白浜130番地		4 設置年月	昭和58年2月28日	
5 総合計画の 位置付け	勢いと活力づくり		訪れたいまちづくり		観光
	施策体系		観光環境の整備		観光関連施設の整備
	主要事業		観光施設整備事業		観光施設の整備
6 設置目的	市民の体力の向上及び観光の発展を図る				
7 設置根拠	下田市板戸海水プール設置及び管理に関する条例				
8 施設の概要	施設の概要	敷地面積 1,999.63 m ² (海岸空地 308.94 m ² ・埋め立て 1,690.69 m ²)			
		大プール 25m×20m×1.5m 水深1.2m 小プール 直径10m×h0.9m 水深0.6m			
	実施事業 の概要	<u>平成18年度より施設を休止とする。</u> <u>耐用年数 30年</u> (昭和58年2月～平成25年1月)			
	料金体系	料金区分	無料施設		
		主な料金			
		減免内容			
		利用料金制度	有 <input type="checkbox"/> 無 <input checked="" type="checkbox"/>		
	施設運営 方法	<input checked="" type="checkbox"/> 直接運営			
		指定管理者制度	指定管理者		
		一部委託	委託内容		
直接従事職員	下田市職員数 委託団体職員数				
9 市内の 類似施設	下田市所有	敷根公園プール 相違点：屋内温水プール・有料施設・			
	民間所有	旅館のプール			

平成19年度	施設名(愛称名)	下田市板戸海水プール	番号	11
--------	----------	------------	----	----

10 取得費等の情報 (単位:円)	取得費及び財源内訳		平成18年度末残高			(備考) 減価償却の方法 ・定額法 ・残存価格1円 ・新設翌年度から償却 ・耐用年数30年 (S58.2~h25.1)
	土地取得費		土地残高			
	建物取得費		建物減価償却後残高 7,999,998円			
	財源内訳		40,000,000円 ÷ 30年 =			
	県支出金	20,000,000円	1,333,333円/年(年間償却額)			
	市債	0円	市債残高	0円		
	一般財源	0円				
寄附金等	20,000,000円					
物品(*万円以上)		物品減価償却後残高				
11 年間経費等推移 (単位:円)	区 分		H16年度決算	H17年度決算	H18年度決算	H19年度予算
	収入	無料				
	収入合計		0	0		
	支出	11節 需用費	713,440	557,455		
		消耗品費	21,344	6,918		
		光熱水費	183,221	141,642		
		薬品代	75,600	201,600		
		修繕料	433,275	20,295		
		12節 役務費	0	0		
		13節 委託料	1,757,000	1,279,200		
	支出合計		2,470,440	1,836,655	-	-
	減価償却費		1,333,333円	1,333,333円	1,333,333円	1,333,333円
	市債利子		-	-	-	-
	下田市負担年間総経費		3,803,773円	3,169,988円	1,333,333円	1,333,333円
備考	人件費は、実額を算出記載(正職員・嘱託職員等の人件費総額) 減価償却費は、初期投資のうち国庫・県負担分を控除した額を基礎としている。					
12 施設利用状況等の推移	利用状況	利用年度	H16年度決算	H17年度決算	H18年度決算	H19年度予算
		利用者数	4,461人	4,532人		
		参考:利用単位当たり市負担額	852円	699円		
	開場期間	7月1日から8月31日まで				
	使用時間	午前8時00分から午後5時00分まで				
13 利用者満足度調査	実施の有無	有 <input checked="" type="checkbox"/> 無		調査結果		
	直近の実施時期					
	調査手法					
	調査数					

平成19年度	施設名(愛称名)	下田市板戸海水プール	番号	11
--------	----------	------------	----	----

業績評価

1 目標達成度

目標達成度	区分	単位	H16年度	H17年度	H18年度	H19年度 予算
	利用者数 の目標値	人	5,000	5,000		
	" の実績	人	4,461	4,532		
	目標達成度	%	89.2	90.6		
選択した指標	成果指標 <input checked="" type="checkbox"/> 成果指標の代替指標					
指標選択の理由	目標達成度を選定する指標として同指標を選択した理由 来遊客の入場に当たって、市内・市外の区別をしていないため、総入場者数を指標とした。					
指標設定の考え方	区分	指標名	指標の考え方			
	成果指標	市民の体力向上				
		観光の発展				
代替指標	施設利用者数					

(参考)

活動指標(施設の目的を達成するための具体的な手段におけるそれぞれの達成度合を把握できる指標)

活動指標		区分	単位	H16年度	H17年度	H18年度	H19年度
活動指標	目標指標	目標値					
		実績値					
		達成度					
	目標指標の考え方						
活動指標	目標指標	目標値					
		実績値					
		達成度					
	目標指標の考え方						
活動指標	目標指導	目標値					
		実績値					
		達成度					
	目標指標の考え方						

平成19年度

施設名(愛称名) 下田市板戸海水プール

番号 11

2 効率性

効率性	区分	説明	単位	H16年度	H17年度	H18年度	H19年度
	施設の総利用者数等		人				
	年間経費	施設の事業費・運営費および人件費の合計額	円	2,470,440	1,836,655		
	利用単位当たり経費	÷	%	11欄の「支出合計」の額を転記記載する。			
総利用者数等の考え方 施設の総利用総数等について用いた指標について記載してください。			備考 コスト評価項目に関して留意事項、補足項目等があれば記載してください。				

その他の指標		区分	単位	H16年度	H17年度	H18年度	H19年度
目標指数	目標指数の考え方	目標値					
		実績値					
		達成度					
目標指数	目標指数の考え方	目標値					
		実績値					
		達成度					
目標指数	目標指数の考え方	目標値					
		実績値					
		達成度					

受益者負担の適正性	区分	説明	単位	H16年度	H17年度	H18年度
	有料部分の年間経費	使用料等を徴収する部分の年間経費	千円			
	受益者負担額	施設の本来の目的による使用料等の年間総額	千円			
	受益者負担比率	÷	%			
	補正受益者負担額	減免者より正規の料金を徴収したと仮定した場合の受益者負担額	千円			
	補正受益者負担比率	÷	%			

平成19年度	施設名(愛称名)	下田市板戸海水プール	番号	11
--------	----------	------------	----	----

施設の現状分析

下田市公共施設利用推進協議会(平成17年5月12日提出資料:観光商工課作成)

判断視点		項目	施設の状況
施設方向性の判断視点	施設の設置目的が時代のニーズに適合しているか	設置目的に沿った利用がされているか	市民の体力向上については、一年を通して敷根公園温水プールが開設しており使命を果たしている。観光の発展も自然志向からするとマイナス要因となっている。干潟磯遊び
		住民の福祉の向上に対し、どのように寄与しているか	遊泳禁止時の海水浴客には寄与しているが、現状は風が強い等の時は閉めている。
		将来に亘り必要な施設として住民の期待を高めていけるか	役目を果たしたものと思われる。
	施設が十分に利用されているか	施設の修繕計画はどのようなものか	予算問題があり修繕したくとも実施できない状況にある。その場ごとの対応
		施設の運営方法と利用者の情報交換はどのようにされてきたのか	板戸区へ委託しており、毎日の利用日誌をつけている。
	施設の管理運営主体が施設の利用目的から判断して適切であるか	同様の施設の設置がされているなど競合していないか	競合はない。
		民間においても十分可能な施設なのか	上水、休憩室、更衣室等なく不適である。
	使用料、利用者数、支出額、市負担額が適正であるか	使用料の算定に当たり実費経費と住民福祉の向上の比較はどうか	無料施設である。
		同種施設との比較、近隣施設との比較はどうか	比較不能
		計画上の利用者数と実際の利用者数の違いがどうなっているのか	計画利用者数は出していないが、年々減少傾向である。
		施設の耐用年数は何年有るのか	不明であるが施設全体陸地へ押され、排水溝等が壊れかけている。
		施設の今後の維持経費の算定はどうか	算定はされていないが、機器類は経年劣化が激しい状態にある。
行政規模からの判断視点	施設の管理運営に係る経費が財政規模からして適正か	施設の管理運営の経費支出が下田市の行政経営からして妥当なのか	妥当とは思わない。管理は賃金で可能であるが、設置された経過がある。
		現行の管理運営を今後も継続していくことが適切か	
	地域的な施設配置のバランスは適正か	旧町村単位における施設配置の見直しはされているのか	地域的なバランスはない。
	施設の統廃合が可能な施設はないのか	施設統合が出来る施設の組み合わせは有るのか	
		老朽化と施設維持の比較から改築廃止をどう考えていくのか	
		地域、民間に譲渡できないのか	出来れば、地元区へ譲渡すべき。経費がかかるので譲渡を受けるか疑問
		施設の目的の範囲を拡大することにより統廃合可能にならないか	
その他			

平成19年度

施設名(愛称名) 下田市板戸海水プール

番号 11

見直しの方策

評価種別		改善・見直しの方策案
市民と行政の役割分担評価	行政関与の妥当性	
	受益者負担の妥当性	
	実施主体の妥当性	
	廃止・休止・縮小・外部委託化・民営化などの方向性	
業績評価	利用者数等の目標数値及び利用者向上策など	
	執行方法の見直しなど効率化のための目標及び方策	
	受益者負担の現状及び適正化のための方策など	
アンケート調査等	市民アンケート調査等の結果	
	サービスの迅速性や利便性など	
サービス面等	利用者満足度の観点からのサービス提供の質の改善方法	

平成18年度事業内容及び見直し事項

事業内容	
見直し事項	平成18年度から休止決定。 耐用年数は30年であり、平成25年1月までが償却残存期間となる。

平成19年度	施設名（愛称名）	下田市板戸海水プール	番号	11
--------	----------	------------	----	----

施設懸案事項

下田市財政健全化検討委員会調査結果（平成16年6月25日付け調査資料：観光商工課作成）

No.	懸案事項	改修経費	備考
1	管理棟がない		
2	プール用のトイレがない		区のトイレあり
3	プール用の水道は施設してない		区の水道はある
4	プール専用の駐車場がない		漁協 区へ貸してある
5	プールへ至る公用道路がない		漁協の土地を通過しなければならない
6	プールフェンスが腐食しており危険である		予算が付かない
7	プール周辺がクラック多数		
8	敷地が陸地へ押しやられており、排水路が狭くなっている		
9	排水用の蓋が経年劣化により悪化している		
10	休憩（日陰）場所がない		開設期間中区が設置している
11	排水用バルブ（パタフライ弁）不良		ピットは常時水に浸かっている ので、バルブ操作は水を排水し なければならない
12	水中ポンプ、揚水ポンプ経年劣化		いつ故障してもおかしくない
13	海水取り入れストレーナ腐食しており漏洩している		
14	21年目を迎え全体的にコンクリートの劣化が著しい		
15	施設内に海岸空地がある		土木に申請を必要とする
16	通信施設がない		区設置の臨時電話で対応している

今後の方向性

今後の方向性	充実 効率化等による見直し 現状のまま継続等 縮小等による見直し <input checked="" type="checkbox"/> 統廃合を進める	（具体的な内容） 施設の設置目的である市民の体力及び観光の発展を図るについては、敷根温水プールが1年中運営されており役目を終えたものと思う。また、観光の発展については、竣工当時は地元誘客につながったものと思われるが、21年目を迎え施設も老朽化されており、現在の自然志向からするとマイナスイメージとなっている。 なお、今後の経費については底板補修、塗装が4、5年に1回施工しており委託費、修繕費百数十万円が毎年支出されます。施設は全体的に老朽化が進み今後修繕費がかさみます。 そんな中、施設利用者の減、板戸区民の重荷を踏まえ廃止したい。取り壊し以前の自然なスタイルの海岸とする。今後の支出総計を考えれば得策と考える。
--------	--	--